

# 芸術

## もくじ

- これからの芸術祭・国民文化祭をめざして…………… 1
- これからの芸術祭に望むこと… 2～ 3
- 基金事業アンケート… 4～ 5
- 国民文化祭に参加して…………… 6
- 県洋舞踊協会のあゆみ(3)…………… 7
- 事務局だより…………… 8



大分県芸術文化振興会議

■ 発行人：挾間正年 ■ 編集人：後藤正二

(題字 首藤春草)

No.79

2.3

## これからの芸術祭は 特色のあるものに



大分県芸術文化振興会議

副会長 小長久子

昨年11月2日から12日まで開催された「国民文化祭さいたま89」のオペラ部門「カルメン」に県民オペラから3人が出演するために私も出演した。本番は5日であるが練習は3日午後から春日部中学校の講堂で始まり夜8時に終り、翌日は春日部市民会館へ移った。午後から舞台の方の準備ができるまで出演者は地下にある二つのリハーサル室で練習。衣裳をつけ、メイクをし、やがて舞台の準備もでき、オーケストラも入って本番通り、ステージでの練習となった。埼玉青少年交響楽団は若い高校生も多かったが、なかなかしっかりした演奏であった。指揮者は東京室内歌劇場・藤原歌劇団でも振っている西本眞也氏、演出は東宝に所属「屋根の上のヴァイオリン弾き」「サウンド・オブ・ミュージック」などを手掛けている有名な増田邦彦氏であった。演出家の一通りの駄目押しが終ると翌日午後3時から本番となった。

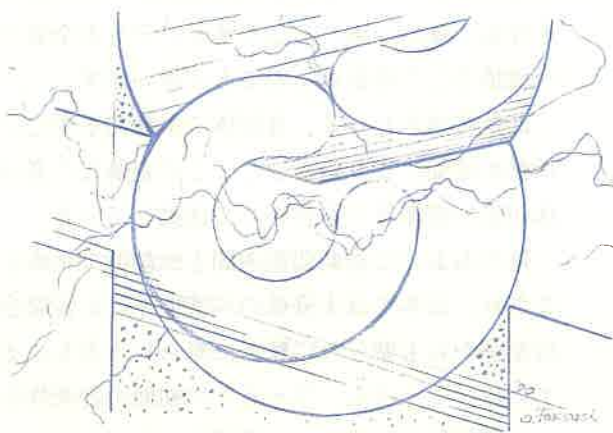
人口20万の都市に、このように理想に近い設備を持ったホールがあるとは全く意外だった。1500席の大ホール(1700～2000あればと思う)と400席の小ホール、舞台の両袖は広く、大ゼリ・小ゼリ、電動式のオーケストラピットも完備、それに廻り舞台まである周到さ。

「カルメン」には合唱・児童合唱を含めて300人あまりが登場。アンコールのデモンストレーションには各県の名を書いたプラカードを掲げ、おなじみの「カルメン」の行進曲で次々と登場、さながら音楽の国体であった。

「豊の国文化創造県民会議」が平松知事に提出した答申では10年後をめどに国民文化祭を大分県に誘致することを骨子として、①豊の国大分の演出、②人づくり、③公的文化施設が挙げられているが、この中でまず施設の整備が急務であろう。最近、九州や四国にも素晴らしいホールがどんどん増設されているようだ。

実際にそれら多くのホールを観て、使用する側の意見も聞き、大分ならではの特色あるホールを作っていたいただきたいものがある。

これからは私たちは国民文化祭に向って大分県のどの町でも、独自の特色ある文化が誇りになるよう、特色のある芸術祭をと願っている。



午後の瞑想

高木 岩義(大分行動作家協会事務局長)

# これからの芸術祭に望むこと

## 〈団体代表者に聞く〉

### 文芸



県俳句連盟事務局長  
工藤 芳久

文芸関係の「芸術祭」は、各ジャンル毎の県大会に対する補助金に限られ、他部門と対比して物足りなさを感じる。文芸がその性格上、華やかさを求める事は無理としても、芸術祭の一翼を担うものでありたいと思う。

一昨年より瀬戸内文化交流として、松山・広島を訪問、その成果が評価されている。県下有季定型俳句の団結・拡充をはかり、他県との交流を進めて、来るべき「国民文化祭」の開催に向けて努力を続けたい。

### 美術



県日本画協会事務局長  
鈴木 忠実

芸術祭が年々充実し県民文化の高揚に大きく貢献していることを喜ぶ。日本画協会としては、参加行事として益々の発展を期していますが、芸術祭会期中の会場の確保、そのスペースの狭さが、差し迫った問題となっています。

文化教室・公民館サークル等の盛況で、かつてない日本画人口の増加です。会場の確保にご協力をいただきたい。またPRをもっと効果的に。

### 音楽



県音楽協会事務局長  
山本 勝彦

県芸術祭も25回を終了した。交響楽団、合唱団、吹奏楽団、民謡、邦楽、小アンサンブル、ソロ等の活動数も非常に増加した。久し振りに、初回の演奏テープを聴いてみた。まだ技術的な面がともなわない感がし、その当時のプログラムを見てみると、関係団体の組織がまだ完成されていなかった。しかし当時は何か一つのものを作る、強さ、魂、そして怖さ、それを全員で一致協力した作品だったことを思い出す。

20数年過ぎたいま、各団体の事務局を中心に活動が活発になり定着した。この定着した各団体が良い音楽作りを目指して活動している。

県のおおいた音楽芸術週間も独創的な企画をなされ、日本では大分県のみ開催される音楽会は全国からも楽しみに聴きに来られる方もふえている。ファイト、ファイトの初回の音楽作りから25回終了したいま、各団体ともにすばらしい音楽づくりを目指し、聴衆を感動させる芸術祭にしたい。

各団体と連携をとり、全体合同の演奏会がもてればと思っている。

## 舞踊



県日本舞踊連盟会長  
花柳 昌吉郎

文化活動に生きがいを持つ者にとって芸術祭は、研鑽の結果を自分の立場で感じとる事が出来る絶好の機会ですが、諸条件のためになかなか思うようには出来ません。

今の数少ない文化施設や限られた芸術祭期間や色んな経費などで、愛好者が技術向上、古典芸能普遍のために活動しやすい環境づくりに、少々提案致します。

1. 芸術祭期間を1ヶ月延長して欲しい。例えば9月1日から11月30日までなど。
2. 開幕・中幕・閉幕行事に参加する場合は、会場を文化振興会議の責任で確保して欲しい。
3. 開幕行事の公演は、郡部のため会員が少なく、入場券がさばけませんので、開催地に入場券の販売援助の働きかけのお願いをして欲しい。

## 演劇



県民演劇制作協議会  
事務局長代行

末田 英三

県民演劇が芸術祭に参加してから17年間。観終って心に残る舞台をと、大分にまつわる歴史・民話等を題材に34作品、一生懸命に取り組んできました。芸術祭はあくまでいまの芸術祭運営協議会と芸術文化振興会議が主体となって今後

も運営すべきです。芸術祭に対する補助金が、実額として年々減ってきていることは、20年間の物価上昇からみて考えられない大問題です。練習場も含め、歴史と伝統をもつ県下の創作活動に、本腰をいれた援助体制を望みます。

## 地域



玖珠町文化振興会議会長  
古後 和男

平成元年10、11月に開催された25周年大分県芸術祭は、これまで最多の県下152文化団体の参加で、かつてない充実した盛大な祭典行事が繰広げられたことは誠に喜ばしく、21世紀に向けての力強い第1歩であった。我が玖珠町文化振興会議も参加団体として「平成を豊かな心で築く玖珠」20周年記念文化祭を開催、地域に於ける文化振興発展の一翼を担って11月を文化月とし、幅広く町民参加のもと三部制による事業を実施した。この秋に当り、豊の国文化創造県民会議が2年間の論議を経て平松知事に答申した所によれば、10年後を目標とした国民文化祭の誘致に係る①演出、②人づくり、③施設整備の3事業は、これから21世紀に向けて本県の文化発展の基本的骨子であり、極めて重要な課題である。これからの10年間に於ける県芸術祭は、県芸術文化振興会議主唱のもと、県教委と共にこれらの課題をきめ細かに検討、事業の推進を図り、実現に努力すべきである。さらに地域文化団体との交流も深め、来る日に備えて足腰を強め、受入態勢の万全を期してほしい。幸いにしてこの答申に係る知事の理解と取り組みが意欲的であることは我々地域文化を推進している者として極めて力強い限りであり、21世紀の展望に大いに期待してやまない次第である。

# 基金事業アンケート

今から5年前の昭和60年に、県条例を設け6年がかりで3億の金を集めた『大分県芸術文化基金』が生まれた。その年から、利息を『大分県芸術文化振興会議』が補助金として受け、その約半分ずつを団体の事業補助と芸振直営の基金事業に活用してきている。

その基金事業とは『ファミリー芸術劇場』『学校巡回公演』『文化キャラバン』などの名称で優秀な実績のある『芸振の加盟団体』による公演、展示活動を通じて地域の文化振興に努めるものである。

このうち最も新しい平成元年度事業について、これを観たり聴いたりした人々に感想を述べてもらったアンケートがあるので紹介したい。

7月17日

## 鶴見町立松浦小学校・鶴見町立東中浦小学校・学校巡回公演

グループ UNO

大変親しみやすい内容でしたが、子供たちは生の演奏を聴くチャンスがないため、感動が充分でなかった。今後もチャンスを増やして欲しい。私個人としては大変素晴らしい歌や演奏を聴かせていただき、嬉しかった。

今後は、子供と一緒に味わえるようにしたいので、よろしく願いしたい。



鶴見町立東中浦小学校でのグループ UNO 公演

7月19日

## 武蔵町立武蔵東小学校・武蔵町立武蔵中学校・学校巡回公演

大分大学混声合唱団

子供たちを引きつけるような構成の努力は非常に良かった。結果的には成功だが、時期が学

校の忙しい時で対応に苦勞した。学生の一生懸命な姿は感動したが、学生たちが自己陶醉していた面もあり、子供のとまどいもあった。しかし本物に接することの少ない子供たちにはよい経験になった。

7月29日

## 竹田市文化会館・ファミリー芸術劇場

県民オペラ

演奏中に入入りさせないで欲しかった。「炭やき」の舞台装置は素晴らしかった。しかし第一景のはじめは、鼓の音が強く声とのバランスが悪くて言葉が判らなかった。竹田にはめったにない「オペラ公演」の機会だったので本当に有難かった。今後もすぐれた公演を期待したい。

8月6日

## 姫島村離島センター・学校巡回公演

人形劇サークル協議会

舞台と子供の心が通い合っていて良かった。中学生と幼稚園児を一緒に見せてもらったが、これは中学生が童心に返り良かったと思う。欲をいえば、もう少し考えさせる内容のものが欲しい。それと夏休みのためかプログラムの配布が遅れたが、早くしてほしかった。人形劇団の皆さん、ご苦勞様でした。



上浦町中央公民館での小袋丹一座の公演

8月21日

### 中津市立中津市如水小学校・三光村立三光中学校・学校巡回公演

県洋舞踊協会

低学年生が意外に関心を寄せていたが、クラシックの方を多くとり入れて子供の知っている名曲（白鳥の湖など）に触れさせることで、情緒性もより向上するのではないだろうか。

同時に会場展示を頂いた「児童絵画展」は、先生・生徒共に非常に勉強になった。こんな貴重なチャンスは本当に有難かった。

10月21日

### 上浦町中央公民館・文化キャラバン

小袋丹一座

生の演劇に接し、大変良かったと思う。お仕事をもちながらの立派なお芝居に感心し、皆様の熱演には感動した。劇の内容も、昔の物語を現代風にアレンジして、親子夫婦の心の綾が良く出ていた。本物の芸術の香りを感じ、大変嬉しかった。今後もよい公演をお願いしたい。

10月22日

### 大山町文化センター・文化キャラバン

大分市民合唱団

もう少し観客が集まるとよかった。小学生が

立って回るのが目立った。しかし、私たちは素晴らしい合唱に童心に返って楽しかった。できればラテン音楽なども希望したい。

大分まで行かずに生の立派なコーラスが聴けて、内容的にも大変楽しませてもらった。来年もぜひ企画してほしい。

11月12日

### 安岐町中央公民館・文化キャラバン

県庁職員吹奏楽団

子供たちがとても乗っていて、身体をゆすって行進のようにしていた。子供にとっては、生の演奏と合わせて歌ったことがとても楽しかったようだ。

町側のお世話が一人で大変なようだったが、もっと多くの人に関心を持って欲しかった。でも、とても素晴らしい文化キャラバンだったと思う。とても感動した。



安岐町中央公民館での県庁職員吹奏楽団の公演



大山町文化センターでの大分市民合唱団の公演

# 国民文化祭に参加して

大分交響楽団 津崎 雅久

私は過去、第2回の熊本、第3回の兵庫、第4回の埼玉と、3回の国民文化祭のアマチュアオーケストラの演奏部門に参加しました。このアマチュアオーケストラの演奏部門について簡単に説明しますと、ジュニアの部（高校生以下）、大学の部、それに一般の部の3部門に分かれ、それぞれ地元のジュニアオーケストラ・大学オーケストラ・一般のオーケストラが中核となり、それに全国各地から募集にて集った人たちが加わってそれぞれのオーケストラを編成し、各部門ごとに演奏を行います。

さて、私が国民文化祭に参加するようになったのは、たまたま熊本交響楽団に知り合いがおり、「今度、国民文化祭なるものが熊本であり、アマチュアオーケストラの人たちが集ってオーケストラを作り、演奏会を行うが、大分交響楽団もそれに何人か参加しませんか」という呼びかけが始まりました。したがって、私は国民文化祭が何であるかなど当然知りませんでしたが、全国各地から集った人たちが本番の前日だけの練習で、どれだけの演奏ができるだろうかと、半分は興味本意で参加しました。それ以後は、なにせ大編成のオーケストラですので、地方の編成の小さいオーケストラではできない様な曲が演奏でき、また、3回連続して参加したおかげで知り合いも多くできて、各地方のアマチュアオーケストラの実情を知ったりと、大いに楽しめ、また役に立っております。

しかし、3回で共に感じた事は、地元の盛り上がり欠けているということです。第2回の熊本の時は、第2回目という事もあって地元の人々の関心が薄かったのですが、中で運営してくれた人たちの心暖まるおもてなしは今でも忘れる事ができません。ただ熊本が良すぎたせいか、回を重ねるにしたがって悪くなっている様な気がしてなりません。熊本以後の兵庫・埼玉が都会であったことが一つの原因であろうと思いますが。

数年後に大分県も国民文化祭の開催地として名乗りを上げているようですが、県民に国民文化祭とは何かを充分に知ってもらい、県民を挙げて、心暖まるおもてなしをし、大分での大会を忘れることができない、という大会にしたいものです。



## 県洋舞界の歩み(3)

杉原昌子バレエ研究所 杉原昌子

竹田という土地はどの人にも深い文化への希求のある土地柄である。戦後となると誰しも楽しい昔を思い、新しい文化の到来を夢見た。昭和22年になると同志が集って踊り、劇・歌などを持ち寄って竹田児童文化連盟が結成された。しばらくはクリスマス子供会として各メンバーが共同して会を持った。開会に「主は来ませり……」と歌うと、誰の胸にも「平和は来ませり……」という歓喜が溢れた。その会のためにバレエの部は毎週一回、私の家の大廊下で子供達がレッスンを始めた。(会費50銭)

会場には困ったが、遂には旧別府公民館とすっかり同じという竹田公民館でできるようになった。でも楽屋は狭く、照明器具は板をわいての手作りで、客席の床は土のままのぼこぼこ。会場づくりにはホールを高箒で清掃して水を打ち、積んである重いベンチを運んだ。映画館のステージもお借りし、幅1mの掛出しをつけていただき、シルクスクリーンを傷つけないよう細心の注意を払いながら使わせていただいたこともあった。

昭和32年にバレエの部は連盟から独立し、やがて大分合同新聞社のお世話で、皇太子殿下御成婚記念の会を県下の洋舞をされる方々が集いトキハホールでさせていただき、これを機に、「大分県洋舞踊協会」の設立を迎えることができた。初代理事長の平瀬克美先生、つづいて樋口愁枯先生、佐藤朱音先生方の御熱心な御指導と会員の協力により、今日に至った。

佐藤朱音バレエ研究所 佐藤朱音

昭和35年に松山樹子先生(東京・松山バレエ団)のご支持で、大分にバレエ研究所を開設した。当時、大分市では平瀬克美先生をはじめ、安部峰子先生(故)、伊坂里美先生が研究所を主宰してご活躍中であった。このお2方の先生は子供の頃、私と同じく竹内永先生の門下生で、終戦後はよくいっしょに踊った。

東京より帰ってすぐの舞台が、大分合同新聞社主催の洋舞踊合同公演であった。「白鳥の湖」より、パ・ド・ドウを春原永人先生(貝谷バレエ団)と踊らせていただいた。その数ヶ月後、大分県洋舞踊協会が設立された。

大分には本格的なステージが無く、別府に国際観光会館大ホールができるのを待って「白鳥の湖」全4幕公演を行った。今では考えられないことだが、バレエを理解していただき、後援をお願いするのに資料等をそろえ、走りまわったことが、舞台作りよりも苦しかったことが思い出される。

私はクラシックバレエ作品の上演と共に「日本のバレエの創造」をテーマにしているが、昭和40年、第1回大分県芸術祭参加「百百若・万寿抄」全3幕を創作上演して以来、毎年のように日本の神話・伝説より創作バレエを創って上演発表してきた。一作品創るにもずいぶんと苦労するので、その作品の顔を二度と見たくないというのが現実ではあるが、許される限り、新しい作品の創造にとり組みたいと思っている。

# 事務局だより

## 基金運営協議会開催

芸術文化基金事業の円滑な計画運営を図るため、芸術会議会長の諮問機関として設置されている基金運営協議会の新しい委員が、下表のとおり決まった。

そして、去る3月6日、平成元年度の基金運営協議会が開かれ、平成2年度の事業概要などについての審議が行われ、諮問どおり答申が行われた。

### 大分県芸術文化振興会議基金運営協議会委員

	現 職	氏 名
学識経験者	大分経済同友会代表幹事	安藤昭三
〃	大分県小・中学校長協議会会長	大塚昭憲
〃	大分県中小企業団体中央会会長	菅原 茂
〃	国際ソロプチミスト大分会長	島田富士子
〃	県立芸術短期大学学長	高橋正臣
〃	大分合同新聞社常務取締役	田中康生
〃	県立芸術会館長	藤井義美
〃	大分県商工会議所連合会会頭	吉村益次
行政関係	大分県総務部長	橋本一晃
〃	大分県教育委員会教育長	嶋津文雄

(任期=平成2年3月1日～平成4年2月28日)

## ナマのオーケストラを満喫

### 本耶馬溪町で九響演奏会

第21回九州芸術祭「九響オーケストラの楽しみ」が7日夜、本耶馬溪町の禅海スポーツセンターで開かれた。聴衆も演奏者も同じフロアでという山里の体育館で催された珍しい演奏会に、町内外から約800人の聴衆が詰めかけた。

井上次男町長が「山村にようこそ、これを機会に音楽が広まることを期待します」とあいさつ。一行が紹介された後、歌劇「フィガロの結婚」序曲が軽快に演奏されて開幕。バロックの名曲「四季」作

品8より「春」、続いてバッハのブランデンブルク協奏曲第3楽章が、共演の「中津女声コーラス」「コールなでしこ」と耶馬溪町の「コールしゃくなげ」の合唱で披露されると、会場の大半を占めた女性ファンはうっとり。

最後は、映画「アマデウス」のテーマ曲にもなったモーツァルト作曲の「交響曲第40番ト短調」が田中良和さんの指揮で、甘い哀愁と優雅さを込めて演じられ、「九響オーケストラの夕べ」を締めくくった。

平成元年度  
第21回九州芸術祭

## 九響 オーケストラの 楽しみ

平成2年3月7日水  
禅海スポーツセンター  
(本耶馬溪町助野センター)  
開演18時30分

プログラム

- 歌劇「フィガロの結婚」序曲……………モーツァルト
- 「四季」より 春……………ヴィヴァルディ
- ブランデンブルク協奏曲第3番 J・S・バッハ

コーラス 花……………中津女声コーラス  
夏の思い出……………コールなでしこ  
真夏の歌……………コールしゃくなげ

- 交響曲第40番ト短調……………モーツァルト

指揮 田中良和  
協奏 九州交響楽団  
歌唱 中津女声コーラス・コールなでしこ・コールしゃくなげ

主催 (印)九州文化協会・大分県・大分県教育委員会・本耶馬溪町・本耶馬溪町教育委員会  
後援 NHK大分放送局・CBS大分放送局・TOSテレビ大分・大分県民会館

若手のピアニストの育成を目的として、昭和60年から開かれていた園田高弘賞ピアノコンクールも今年で5回目をむかえ、11月24日に県庁正庁ホールで予選会、26日にコンパルホールで本選会が開かれた。今回から近隣諸外国からも参加を求め、園田高弘賞には韓国の朴鐘訓さん、準園田高弘賞にはフィリッピン人のホセ・アルテミオ・パンガニバンさんがそれぞれ受賞した。また、園田高弘賞奨励賞には大分市の佐藤希さん、大分県知事賞には別府市出身の岩野聡美さんが選ばれた。

## 第5回 園田高弘賞 ピアノコンクール



第5回園田高弘賞ピアノコンクール表彰者